

日本語教育・学習体制をいかに整備すべきか
～外国にルーツのある子どものことばと学びを支える～
アンケート結果

開催日時：2021年9月19日(日)13:30～15:30

参加者：講師含み25名 アンケート回答者：17名

注：5～7の回答は「である調」とし、一部の文章を簡潔にした。

1. 年代をお伺いします。

40代：1名 50代：1名 60代：5名 70代：7名 80歳以上：3名

2. 大学女性協会の会員ですか

はい：15名 いいえ：2名

3. 会員の方は支部名をご記入ください。

茨城：1名 東京：2名 神奈川：4名 静岡：1名 金沢：1名 京都：1名

奈良：3名 福岡：1名 長崎：1名

4. 勉強会の内容はいかがでしたか？

とても興味深かった：7名 やや興味深かった：5名 ふつう：5名

5. 勉強会の内容で印象に残ったことはどんなことですか？

*母語教育に関する回答 5件

- ・人間のことばの本質をしっかりと捉えた上での、外国語教育、母国語教育、について、ご教示いただき、大変参考になるとともに、感動を覚えた。
- ・海外から来た子供たちが日本で幸せに生活するためには、日本語教育が必須だが、母国語を大切にされた教育も重要であることをあらためて学んだ。その基盤にあるのはそれぞれの子供や保護者の人権の尊重とそれぞれの文化へのリスペクトでしょう。
- ・日本語教育を通じた日本への同化を目指すのではなく、母語教育の大切さも訴えていただいたこととその理由が自分の考えと同じだったので、自分の理解が間違っていなかったことがわかったことがありがたかった。
- ・母語は家族との繋がりを保つことと、抽象思考を育てる上で必須のものだということ。
- ・母語の重要性が再認識できたこと。

*先進事例の紹介に関する回答 4件

- ・先進事例としてスウェーデンの少数民族言語の児童・生徒に対する母語教育のあり方に感銘を受けた。同じ母語の子どもが5人在籍していれば、母語での授業が行われるという事例の紹介。福祉が行き届いた国であると聞いているが、他国の文化を尊重していることにもなる。このような愛情にあふれた政策に心が温まった。
- ・スウェーデンの対応
- ・スウェーデンの事例

- ・スウェーデンの事例は素晴らしいと思った。そこまでは難しいとしても、アメリカでは第2外国語としての英語をどう教えるか教科書があるとのこと、日本でも第2外国語としての日本語をどう教えていくのか教科書ができれば良いと感じた。
- *今まで言葉は物事の呼び名、記号のように受け止めていたが、「分かる・伝わる・つながるよろこび・楽しさ→伝えたい事・伝えたい相手→受け止めてくれる相手がいること」を意識して大切に使うなればと気付かされた。
- *支援する子どもとの関係作りの大切さについて。日本語を教える、覚えさせるのではなく、ことばを育むという視点で支援する事が大切である事を改めて学んだ。
- *ことばを教えるのではなく、育むもの。指導は不要、互いに提案できる場づくり。
- *学習言語と生活言語との学習で、言語能力は伸びる。特に、生活言語での習得は大事である。
- *冒頭の「多様な子供を取り巻く環境」について意識をあらたにした。
- *外国にルーツのある子どもは、年齢も背景もその他いろいろな点でひとくくりにできず、目の前にいる子どもをよく知って対応する必要があるということ。
- *日本語の教育について、個々のこどもの発達段階に応じた指導が重要だということ。
- *「言葉に値札がついている」という事になるほどと思った。
- *内容がちょっと常識的で、具体性にかけていたように思う。
- *発表内容は、ご自分の研究成果のみなのか、どこかでの事実なのか、という印象でしたが、分からなかった。

6. 今後の日本語教育に関し、コメントがあればお書きください。

- *実際に日本語教育を受けている子供たち或いはその親たちは、日本で生活していくのに言葉を習得しながらどのような要望をもっているのだろうか？日常日々楽しく過ごせればいいのか？上手に言えないが、少子高齢化の日本に日本が助っ人として受け入れているようで何か情けない気持ちになる。外国の方が積極的に日本で暮らしたくていらしたのならよいのだが・・・。
- *海外から入国する人の数が増大している今、その人たちに寄り添った日本語教育の充実は待った無しの状況にあると思う。子供たちが日本で疎外感を味わうことなく、自己実現できるような環境を整えられれば、日本の治安はこれからも維持でき、私たち日本人にとっても大きなメリットとなると思う。
- *日本語を学び、日本のことを知り、子ども時代を日本で過ごす経験を持ったことに幸せを感じられるように教育ができればいいですね。学校教育だけでなく地域の中で日本人と親しく触れ合えるといいですね。
- *上記のこと（註：人間のことばの本質をしっかりと捉えた上での、外国語教育、母国語教育）を踏まえたものであってほしい。
- *国語を教えるのと日本語を教えるのは全く違うということ、多くの人に知ってもらうことが大切なのではないか。少なくとも教師の資格をとるためには日本語教育の単位をとることが必修になって欲しいと考える。（日本語教師の資格をとることまでは望まない。）
- *前回今回と大変勉強になった。日本語指導の必要性は現場の人間は痛感しているが、予算配分や組織づくりなど、自治体の取り組みがまだまだだと感じている。

* 提言の中にあつたかと思うが、日本語教育に関係する方々の報酬、予算的裏付けに関して。外国にルーツを持つ子供たちに日本語を教える立場の方たちにボランティアが多い。何らかの報酬を得ておられる方々よりも適任であり優れた方も多いように思う。個人的には経済的援助がどのようにされるべきか考えてしまう。

* 公認日本語教師の制度が動き出すと、しばらくは、混乱が生じないか気になる。

コロナ禍で外国からの働き手の入国が以前考えられていたほどの勢いではない今のうちに、コロナ後の日本語教育の在り方を行政も事業者も地域も連携して考えることができたらと思う。

* 従来の日本語教師資格以外に新たな資格ができたり、日本語教師養成課程も充実してきているようだが、まだ勉強会は概論段階なので、現場の学校教育の場でどのように対応されているのかまで、いまいわからない状態。

文化庁の新制度が現場に活かされるまでの期間の対応についてもよくわからない。

地域ボランティアあるいは同じルーツをもつ人たちのコミュニティのおかげでなんとか現在対応しているのではないかと、という感触を受けている。地域差学校差がなるべくないような対策、またルーツとなる国によって対応差が出ないような対策がどの程度とられているのかが不明。

地域差学校差だけでなく、外国にルーツをもつ子どもとその家族それぞれの個人差もかなり大きいと思われるが個人情報になりそうな部分なので、実情をひろうのは難しいと思う。すぐ実行に結びつくような提言を早急にまとめ上げるのはかなり難しいという感触を持っている。

* 支援員さんや学校だけでなく、地域やボランティアの方など、もっと社会全体で関わることができればと願っている。そのような地域はまだ少ないと思う。

* 子どもの成長発達にはやっぱり母語が大切である。日本に來ている外国人の子供は母語、母国の文化などは両親がしっかり親として自信をもって教育すれば良いのでは。ただ、親たちが孤立しないように親を支える環境を提供するなどの支援は必要。

子どもたちへの日本語の教育は行政、学校、地域の関係機関との連携が大切。

前回の勉強会の西尾市がとても良いモデルと思う。

* 外国人に対して教える日本語というとらえ方を越えた、コミュニケーションの道具としての日本語を教えるという意味では、どの教育の現場でも重要なものだという認識を高める必要があるのではないか。

* 言葉には「話し言葉」と「書き言葉」があるが、これから AI の時代になると「書き言葉」も大事になるので、教育の現場での努力を期待したい。

* どの年齢がベストか分からないが、地方の伝統に密着した、或いは、残して欲しい方言について大切に扱って欲しい。

* 今日のような総括は、分かりきった話にしかならない。私自身、進んだ具体例をもっと知れば、何か新しい方向性を書くこともできるかも、という段階である。

* 日本語は、言葉だけでなく、漢字・平仮名・片仮名や、世界各国の中に日本語独特の話し方がなども、日本語教育の時に、実施しているのですか？

* 勉強会のタイトルは「日本語教育・学習体制をいかに整備すべきか」だったので、現在の日本語教育の実情を踏まえて、どのように整備すればよいかのお話が聴けると思っていた。母語の重要性や言語学習についてはとても丁寧に説明していただき有難かった。日本語教育のあり方について

での理念説明などだけでなく、体制整備のために、行政、学校、地域など、それぞれの立場でどんなとりくみがなされているのか、また、今後何をなすべきかについての具体的なお考えに触れていただければよかったと思った。

7. 「外国にルーツのある子どもの教育」に関して、今後の勉強会で取り上げてほしいテーマや講師として招聘してほしい方があればお書きください。

* 今回ご紹介下さったスウェーデンの教育政策のように、先進的な教育方法を詳しく知りたいと感じた。成功している例から学びたい。

* 外国籍（二重国籍）の子供と言語教育

* 現役の日本語コーディネーター、あるいは夜間中学関係者（現役あるいは元）といった、現場で対応している方がみつかるとしたら、お話を伺いたい。

* 新しい夜間中学の動き

* 西尾市のように、とても進んだ事例とは逆に、地域分散型で取り組み後進自治体の実情や課題解決に向けての糸口が見えるような取り組み事例の紹介をしてほしい。

* 日本語指導を担当している行政側の意見も聞いてみてはどうか？

* とりあげてほしいテーマ

① 大人の日本語教育と子どもの日本語教育の違い（何がちがうか、なぜ違うか）

② 支援を必要としている子どもたちの実態（支援を受けている子どもたち／受けることができない子どもたち、進学や就職の状況）

③ 保護者、特に母親を支えるための具体的な方策（外国人の相談窓口がうまく機能している自治体があれば、その話など）

④ 「外国にルーツのある子どもの教育」を考えるための「子どもの権利」という視点

* 日本の現状は、日本語教育を個々にやっている段階ではないと思う。政府が具体的にどんな方針なのか、政策を調べたらどうか。それでない、表面化している問題を叩いているだけにみえてしまう。